

学位被授与者氏名	藤原 あゆみ（ふじわら あゆみ）
論文題目	自己観に関する社会心理学的研究 — 社会的環境による影響の検討 —
論文審査結果の要旨	ポストモダン社会の青年期の自己を説明する際に、自己の多面性が一元的に統合されるという従来の発達モデルを適用するのが困難になってきているという指摘があり、本研究で扱われている自己の多面性の統合に関する話題は、社会心理学のみならず、臨床心理学や社会学においても近年注目されている。現代社会で特徴的だと考えられているいわゆる多元的自我と近代の自己観であるとされるいわゆる一元的自我が、どのような要因と関わって成立するかを説明する有力な仮説は今のところ提示されていないため、本研究において、これらの自己観の違いに自己変化量、自己本来感、社会的圧力の程度がかかわっていることを示したことは大きな意義がある。一元的自我については、場面ごとに呈示する自己の姿が大きく異なることによって多面性の矛盾や葛藤が生じ、それを高次で処理する過程に関連してメタ的に管理する「本当の自分」という概念が形成、強化されると考えられている。また、多元的自我は矛盾や葛藤の経験が少ないことによると示唆され、今後の研究の足掛かりとなることも期待され、注目されるべき研究結果であるといえる。 関連する先行研究は十分に読みこなされており、複数の分野にまたがる研究史は要領よくまとめられている。調査と分析の方法も適切で精緻な記述がなされている。仮説検証型の建付けに探索的な部分が混在したようなところも少し含まれてやや読みにくい部分もあるが、考察はよく考え抜かれており、探索的な部分についても結果をふまえて十分に書かれており不足を感じない。全体として修士論文として申し分ない研究成果であると認めることができる。 2026年2月20日に、北九州市立大学北方キャンパス4号館4-301教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。